

2016 年度活動報告 CJP 授業：日本文化 B

阿部 美恵子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、ひらがな・カタカナの学習をスタートしたばかりの学生から、中級前半の学生を対象としている。1 週間に 90 分 1 コマで、21 名が履修した。簡単な日本語で行われる講義を通して、日本文化について理解すること、学んだ内容を調べることによって、さらに日本文化への理解を深めることが目標である。

2. 授業内容

学期前半は日本のコメディ映画を視聴し、映画の中に現れる日本文化を取りあげて説明し、それを発展させて学習した。後半は、日本の食文化について PPT や映像資料を用いながら、やさしい日本語での講義を行った。そして、学んだ項目について日本人学生へのアンケートを課すことで、日本語でインタビューする練習や、回答を日本語で書く練習にもなるように計画した。

また、日本文化 A クラスと合同で京都フィールドトリップを実施し、①デバ地下見学、②錦天満宮見学、③錦市場見学、④伏見稲荷見学、⑤和菓子作り体験を行った。学生を 4 つのグループにわけ、①～⑤の各訪問場所で行う課題を事前に与え、単に楽しんで終わるのではなく、学習につながるように工夫した。

日本人へのアンケートのほか、映画のトピック終了時のミニレポート、フィールドトリップの感想文、食文化に関する期末試験を行った。

3. 成果と今後の課題

カリキュラム改編にともなって、ひらがな・カタカナの読み書きができない MJT の学生も履修することになった。そのため、特に学期前半は難易度を下げ、日本人学生へのアンケート実施前のクラス練習にも多くの時間を割いた。そのことで、中級前半の学生には多少退屈に感じたこともあると思われる。しかし、学期末のアンケートで授業への満足度を尋ねたところ、19 名中 18 名が「満足している／まあまあ満足している」と答えた。「多くのことを学んで、今は学んだことを日常生活に応用している」「説明がやさしかった」等の自由記述からも、満足していたことがうかがえた。

文字の読み書きができない学生も理解できるように、そして、中級前半の学生にも新たな学びのあるクラスにすることが求められる。とりあげる項目で難易度をあげ、説明や課題の難易度は下げる等の工夫をすることで、これらを両立させたい。